

オンライン研修での自己学習を支える現地講師の役割

ーフィリピン EPA 訪日前研修第14期の実践からー

早川直子・牟田綾・竹本恭子・本間理恵・カリスマ コロマ・
クリストファー マサヒト カツマタ・ジョセフ カーロ オリリョ

1. はじめに

本報告は国際交流基金（The Japan Foundation、以下、JF）が実施している経済連携協定に基づくインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者日本語予備教育事業のフィリピン研修（以下、EPA 訪日前研修）において現地講師が主体となって進める学習時間を取り上げ、現地講師の役割の重要性について述べる。インドネシア、フィリピン各国で実施される研修には、候補者と呼ばれる研修参加者が毎年約300名参加する。そして、半年の研修後、候補者は看護師国家試験あるいは介護福祉士国家試験合格を目指して訪日する。研修の概要については登里他（2014）および大田他（2022）を参照されたい。

EPA 訪日前研修の報告は、これまでカリキュラムや研修の運営方法に関する内容が中心であった。今回、教務を担当する JF 日本語専門家と EPA 訪日前研修の運営メンバーであるフィリピン人専任講師が報告者となり、EPA 訪日前研修におけるフィリピン人講師の役割を明らかにし、ひいてはフィリピン人講師自身がそれを意識することで、より質の高い学習支援につながることを期待する。

1.1 EPA 訪日前研修の講師体制

EPA 訪日前研修は、JF の海外拠点であるマニラ日本文化センターによる運営（以下、研修 A）と現地の日本語教育機関による運営（以下、研修 B）の 2 機関で行われている。研修 B はマニラ日本文化センターが業務委託をした外部機関であり、両機関の研修内容は同一である。

2021年11月から2022年6月まで実施した第14期研修の開講時の候補者数は、研修 A は164名で10クラス編成、研修 B は86名で5クラス編成、合計250名であった。また、講師数は研修 A B 合わせて40名、内訳は表 1 の通りである。

表1 第14期 EPA 訪日前研修講師数

研修運営	講師数	日本人専任講師	フィリピン人専任講師	フィリピン人非常勤講師
研修A	29名	20名	2名	7名
研修B	11名(うち教務1名)	-	5名	6名(教務含む)

1.2 EPA 訪日前研修のフィリピン人講師

表1で示したように、EPA 訪日前研修では日本人講師とフィリピン人講師が授業を担当している。フィリピン人講師は日本語学習経験者であると同時に訪日経験者としても候補者の先輩にあたり、自らの経験をいかした指導でEPA 訪日前研修を開始時から支えている。何期にもわたって継続する講師が多く、中には10年以上になる講師もあり、非常勤講師といえども研修には欠かせない存在となっている。

研修AではJF本部が採用する日本人講師とマニラ日本文化センターで採用するフィリピン人講師がチーム（日本人講師4名とフィリピン人講師2名）を組んで授業を担当する。フィリピン人講師が先に述べたような役割を持つ一方、日本人講師には候補者が訪日することを踏まえ、身近な日本語母語話者として候補者の学習を支援する役割がある。

研修Aにおけるフィリピン人講師の採用条件は、研修の最終到達目標が初級終了程度（日本語能力試験N4程度）であることから、日本語能力試験N3以上に合格し、かつ日本語で授業ができることとしている。外部の日本語教育機関やマニラ日本文化センターの授業と掛け持ちしている講師やEPA 訪日前研修のみで教えている講師など背景は様々である。

研修Bはフィリピン人講師のみのチーム編成で、教授経験豊富な講師が揃っている。講師採用については委託機関に一任している。

本報告で述べる新たな学習支援の取り組みは、日本人講師との協働が欠かせない研修Aでも、フィリピン人講師が主体となって担当した。次章以降では、この新たな取り組みの様相からEPA 訪日前研修におけるフィリピン人講師の役割とその重要性を検証していきたい。

2. プラス3 With Teachers の概要

本章ではフィリピン人講師主体の学習支援「プラス3 With Teachers」の概要について述べる。

2.1 プラス3（非同期学習の時間）の重要性

EPA 訪日前研修は新型コロナウイルスの影響により集合対面研修が困難となり、13期（2021年3月－2021年8月）からオンライン実施となった。対面授業では1日7コマ（1コマ50分）

であった授業時間のうち、当地のインターネット環境等を鑑み、1日3コマを非同期学習（以下、非同期）の時間とし、Zoomでの授業は1日4コマとした。これにより、総学習時間820時間のうち約350時間（約43%）が非同期の時間となり、この時間の学習成果が研修を通しての成果に大きく影響することとなった。

経済連携協定に基づくインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者日本語予備教育事業の目標は、大田他（2022）にもあるように、「日本語」「自律学習」「社会文化理解」の3つである。このうち「日本語」については、日本での生活と国内研修での学習に必要な基本的な日本語の知識と運用能力を習得することと、日本での生活と国内研修に必要なコミュニケーション能力を含め、4技能をバランスよく身につけることなどが目指されている。

これとは別に、フィリピンでは期ごとに研修目標を設定し、研修期間を通して強化すべきことに対し講師に意識付けを図っている。オンライン2期目となった第14期研修は、この非同期時間の重要性をより講師・候補者に意識させるため、非同期の3コマを新たに「プラス3」と名付け、「プラス3の質を高める」を全体目標に掲げた。この「プラス3の質を高める」ことが授業での質の良いアウトプットに結びつくとし、講師に向けて予習課題の工夫に関する研修を実施した。例えば予習した基本文型を使って例文を作成させることで、新しい学習項目の理解度を把握し、授業では理解不足の部分を補いつつも応用練習に多くの時間を充てるなど、授業が豊かなアウトプットの間となる工夫を期待した。

そして、候補者には主教材『まるごと』の授業前のプラス3の時間に、日本語学習プラットフォーム「みなと」⁽¹⁾で該当課を独習することを課した。本研修では候補者を未習レベルと既習レベルに分け、未習レベルの候補者は『まるごと』入門A1から初級2 A2-2まで、既習レベルの候補者は初級1 A2-1から初中級 A2/B1までを学習する。プラス3の時間に『まるごと』の学習課に対応する「みなと」のコースを受講することで、次の授業の学習項目を予習し、疑問点を明らかにしてから授業に出席することになっている。

2.2 プラス3 With Teachers 実施へ

前述のように、オンライン化により非同期時間の重要性が増したが、候補者が非同期の時間で十分な学習成果をあげるためには効果的に自己学習をするための学習戦略が必要となる。例えば、新しい文型を覚えるためには覚えるための工夫とともに、学習計画を管理したり、自分に適した学習方法を選ぶ工夫が必要である。しかしEPA訪日前研修の候補者らは、言語学習経験が乏しい者や長らく学習から離れていた者も多く、教師がステップバイステップで学習方法などについて支援する必要があった。

そこで、第14期研修ではプラス3をZoomでつなぎ講師が直接学習を支援する「プラス3 With Teachers」を実施することにした。詳細は3.1で後述するが、候補者の自律学習を支援す

る時間であるという共通認識のもと、候補者それぞれの学習スタイルなどを意識したうえでのより個別化した支援を期待し、担当講師はフィリピン人講師のみとした。

3. プラス3 With Teachers の実践概要

3.1 実施形態

研修開始から約ひと月後の12月中旬から、週に1回のペースで実施した。図1のように、授業は1クラスを午前と午後のグループに分けて行っていたが、プラス3 With Teachers では同じチームに所属する2クラスの午前グループ合同、または午後グループ合同で実施した。研修後半は下位レベルの2クラスのみ、週に2回実施した。

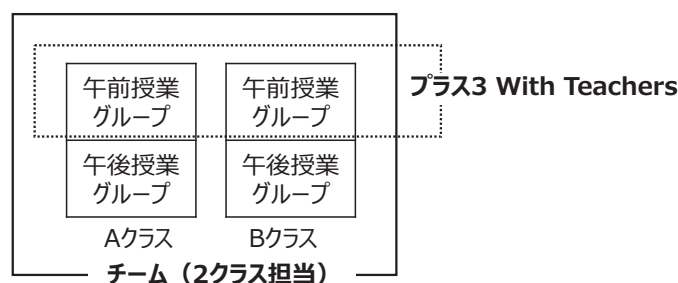


図1 プラス3 With Teachers の実施形態イメージ

またプラス3 With Teachers 開始前に担当講師にガイダンスを行い、図2のように1コマ目の冒頭で学習ゴールの確認や学習ストラテジーの共有をした後に候補者を数名ずつブレイクアウトルームに分け自己学習をさせることや、3コマ目にその日の学習内容を会話や文で発表させ、最後にふり返りをさせる（個人→グループ間）ことなど、基本的な流れをモデルプランとして示した。また、候補者が自己学習をしている間、講師がブレイクアウトルームを回り学習進捗や疑問点がないかなどを積極的に問いかけることも確認した。

1コマ目	2コマ目	3コマ目
<ul style="list-style-type: none"> ● 今日のゴールを確認 ● 学習ストラテジーの共有 ● 予習（「みなと」など） ※グループ学習 ※適宜、声かけやサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習（「みなと」など） ※グループ学習 ※適宜、声かけやサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトプットの時間 ● 教師からのFBや質問 ● ふり返りを書く

図2 プラス3 With Teachers の流れ

3.2 チームへの引継ぎ

候補者が3コマの学習進捗や課題点などを繰り返し英語で記入した Padlet は、候補者間さらにチームの講師間で共有した（4章で詳述）。

また講師からみた候補者の学習進捗や課題点などは、Microsoft Teams 上で業務報告としてチームに共有することとした。プラス3 With Teachers での候補者の理解度や達成度に応じて授業や課題内容を調整できることが理想とし、図3のような[授業][課題][プラス3/プラス3 With Teachers]の連携について、教師研修やチーム会議で検討する時間を設けた。

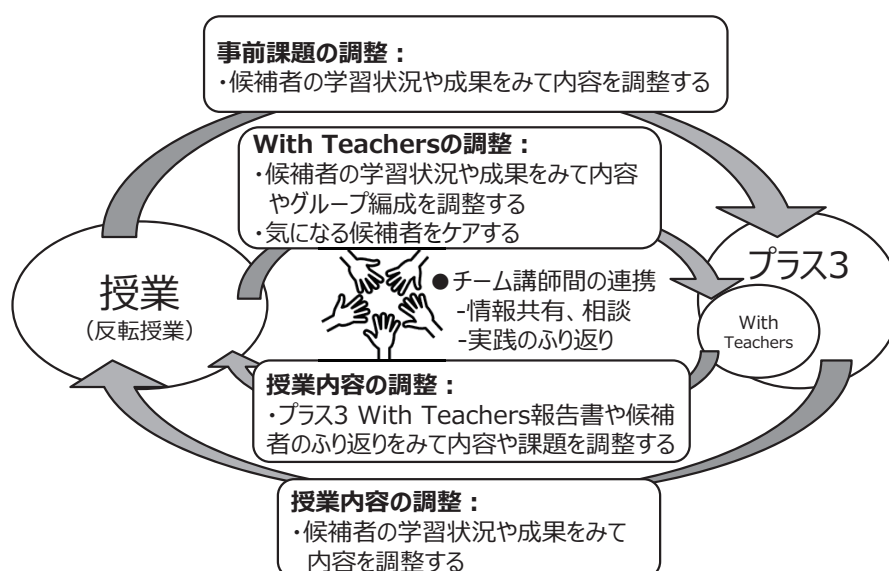


図3 [授業][課題][プラス3/プラス3 With Teachers]の連携イメージ

4. プラス3 With Teachersの実践からみえたこと

本章ではフィリピン人講師および候補者によるプラス3 With Teachersを繰り返ってのコメントをもとに、EPA訪日前研修におけるフィリピン人講師の役割を考察する。なお、明らかな誤字脱字や、個人が特定できる箇所については報告者が加筆修正した。

4.1 講師による振り返り

第14期研修で初の試みとなったプラス3 With Teachersを振り返るため、研修の終了直前に担当講師へのアンケート、ならびに最終報告会を実施した。以下、4.1.1からアンケートと報告会で得られたコメントをもとに、プラス3 With Teachersでみえたフィリピン人講師の特徴として、「講師と候補者の関わり」「学習習慣形成への働きかけ」「チームの講師との協働」の3点を取り上げる。

4.1.1 講師と候補者の関わり

フィリピン人講師は候補者と共通の言語や文化的背景を持っていることで、よりきめ細かな支援をしていた。

オンライン化により学習時間の減少や、対面研修時のような講師と候補者間の日常的なコミュニケーション効率の低下が起これ、授業では質問をしにくい環境となったが、共通の言語や文化的背景を持ったフィリピン人講師がプラス3 With Teachersを担当することで、候補者は授業よりも気軽に質問でき、コミュニケーションが取りやすい環境を得ていた。またそれによって講師は、候補者の学習状況をより詳細に把握できるようになった。

以下の講師A、講師Bのコメントからも、プラス3 With Teachersでの講師と候補者のコミュニケーションが授業よりも活発であったことがうかがえる。

Since plus 3 With Teachers is less formal, the candidate can communicate with the teachers.

(講師A)

プラス3 With Teachersの時間は授業ほど堅苦しくないため、候補者は講師とコミュニケーションがとれる。〔報告者訳〕

I found out about questions that the students have that they were not comfortable enough to ask during lectures. (講師B)

候補者たちが授業中聞きにくい質問について知ることができた。〔報告者訳〕

さらに講師Bは、候補者にとって難しい学習項目を自身が理解するのにプラス3 With Teachersが助けになっていると感じるとともに、今後の授業に向けて自身の努力がもっと必要かもしれないと述べている。

Students might have the same questions regarding a topic or grammar pattern. It also helped me realize challenging portions in the lesson that I might need to put more effort into next time. (講師B)

候補者たちはトピックや文型に関して同じ疑問を持つことがある。そこから私が次の授業でさらに重点的に取り組まなければならないことが明らかになる。〔報告者訳〕

以上のように、プラス3 With Teachersでは授業以上に講師と候補者が深く関わり、コミュニケーションが取りにくいとされるオンライン研修において、講師が候補者の理解度や達成度といった学習状況を理解するための貴重な時間になっていたといえる。

4.1.2 学習習慣形成への働きかけ

2.2で述べたように、EPA 訪日前研修の候補者は言語学習経験が乏しい者や長らく学習から離れていた者が多く、自己学習を充実させるためには有効な学習方法を意識した支援が必要となる。プラス3 With Teachers では、フィリピン人講師が自らの日本語学習経験をいかし、候補者にとって効果的な学習方法と学習の習慣づけを意識した支援ができていた。

以下、講師Cのコメントからは、シャドーイングなどの効果的な学習方法の共有を、次の講師Dのコメントからは、学習計画に焦点をあてた支援を実施していたことがわかる。

Give additional resources and techniques for self-study such as, “how to effectively use Marugoto plus⁽²⁾”, “how to do shadowing properly” and “how to effectively do advance study in MINATO”. (講師C)

「まるごとプラスの効果的な使い方」「シャドーイングの正しい方法」「みなどでの効果的な予習方法」のような自己学習のための追加リソースや方法を紹介する。〔報告者訳〕

Checking and helping to make the study plan sheet can help the students to find their rhythm in studying Nihongo. (講師D)

学習計画シートの確認や作成をサポートすることにより、候補者は日本語学習のペースをつかむことができる。〔報告者訳〕

このような候補者の学習習慣形成を目指した学習ストラテジーの共有や学習計画支援は、4.1.1で述べた候補者と講師のコミュニケーションの深まりが、より候補者の学習状況に応じた支援につながっていた点と重なっている。

4.1.3 チームの講師との協働

3.2に先述したように、プラス3 With Teachers を担当したフィリピン人講師は、候補者の学習状況や課題点などについて、同じチームに所属する講師に会議や報告書で共有していた。プラス3 With Teachers を開始した12月以降の会議では、候補者に関する情報提供や相談においてフィリピン人講師の発言が増え、これらは授業および課題内容をチームで検討するうえで有益な情報となっていた。

以下、講師Eのコメントからも、フィリピン人講師からの情報を参考にして、チームで候補者の弱点を補強するための授業内容を検討していたことがわかる。

候補者の悩んだこと（文法・漢字など）、チャレンジを報告して、どのような取り組みをしたか、またはするかというアドバイスをチームの講師にしました。授業の担当講師が気がつかないことに Plus 3 with Teachers の担当講師が気づき、それについて講師間で確認するのは効果的だと思います。（講師E） [破線部は報告者の補足]

また、以下の講師Fのコメントからも、明らかになった候補者の弱点をチームの講師間で共有し、プラス3 With Teachers でフォローする取り組みが行われていたことがわかる。

From the assessment of the team, we gathered the weaknesses of the students, often/common mistakes of the student. we need to follow it up during プラス3 With Teachers. (講師F)
チーム内で相談のうえ、候補者の弱点やよくみられる共通の間違いをまとめた。その項目をプラス3 With Teachers でフォローする必要がある。[報告者訳]

以上のように、フィリピン人講師がプラス3 With Teachers で得た候補者に関する情報をチーム内の日本人またはフィリピン人講師に共有することで、候補者の理解度や達成度に応じた授業および課題内容の調整ができた。さらに、授業や課題からみられた候補者の弱点をプラス3 With Teachers で強化することが可能になった。これらは学習支援の質を上げることに結びつき、EPA 訪日前研修におけるフィリピン人講師の存在感を高めた。

4.2 候補者によるふり返し

プラス3 With Teachers では、毎回候補者に学習状況や課題点をふり返らせて Padlet に記入させた（以下、候補者ふり返し Padlet とする）。4.2では候補者ふり返し Padlet のコメントから、プラス3 With Teachers でみえたフィリピン人講師の特徴として、「学習面のサポート」「精神面のサポート」の2点を取り上げる。

4.2.1 学習面のサポート

フィリピン人講師はプラス3 With Teachers を通して候補者に有益な学習支援を行っていた。授業では基本的に日本語が使われるが、プラス3 With Teachers では必要に応じ、英語やタガログ語を使用して支援することで、候補者の疑問点や躓きそうな点に対してより細かな対応にあたることができた。

以下候補者Aのコメントからは、講師が候補者の疑問点についての的確に対処していたことがわかる。また候補者Bも、講師によるタガログ語の説明が理解の助けになったと述べている。

It is a big help because our sensei were able to explain further lessons that I find difficult. All our questions were answered and clarified. Plus 3 is very helpful for us students. (候補者 A)

難しかった授業内容を先生が解説してくれるので非常に助かる。すべての疑問を明らかにしてくれる。プラス 3 With Teachers は私たち候補者にとってかなり有益だ。〔報告者訳〕

He provided a good power point for the review which is there a Tagalog explanation so each and everyone of us understand it easily and it was very helpful. (候補者 B)

先生は復習のためにタガログ語の説明資料をくれたので、私たちは難なく理解できてとても助かった。〔報告者訳〕

さらに候補者 C は、日本語学習の難しい点を理解しているフィリピン人講師だからこそ、ポイントを押さえた教え方ができるのだろうと解釈している。

Sensei's style of teaching is strict yet very light and easy to understand. Maybe because she is Filipino too so she knows the part where we are struggling. (候補者 C)

先生の教え方は厳しいがシンプルでわかりやすい。彼女もフィリピン人なので、私たちが苦手とする部分を理解しているのだろう。〔報告者訳〕

このように、プラス 3 With Teachers では、候補者との共通言語を持っていることや日本語学習経験者であるというフィリピン人講師の優位性をいかし、授業の予習として有益な学習支援が行われていたといえる。この点については、先の 4.1 の講師によるふり返りでも、日本語学習経験をいかした支援が特徴としてみられたことと重なる。

4.2.2 精神面のサポート

フィリピン人講師は、プラス 3 With Teachers において、候補者の学習面のみならず精神面での支えにもなっていた。候補者ふり返り Padlet にも、それがわかるような候補者の心情が散見され、フィリピン人講師が精神面から候補者の学習意欲向上に働きかけていたことがわかる。

以下のコメントからも、この時間に候補者が講師に対して心理的安全性を感じている様子がみえる。候補者グループ D⁽³⁾ は、長期休暇明けに学習意欲が落ち込んだ際も、講師の支援のおかげでプラス 3 With Teachers が実りの多い学習時間になったと述べている。

Today's Plus 3 was productive even though most of us are still a bit tired from our Holiday "escape" and still in transition going back to our usual study mode. A sensei managed to help us snap back to reality. (候補者グループD)

私たちのほとんどが日常からの「逃避」、休暇モードからいつもの学習モードへの移行中で、まだ疲れが残っている状態だったにも関わらず、今日のプラス3 With Teachers は濃い内容だった。先生は私たちを現実に引き戻すべく導いてくれた。〔報告者訳〕

EPA 訪日前研修には研修開始後ほどなく約3週間のクリスマス休暇に入る。フィリピン人にとってクリスマスは一年で最大の行事であることから、休暇明けは学習意欲はもとより、研修への参加意欲さえも失われがちになる。そのような時、フィリピン人講師は文化的背景を十分理解し候補者の心情を汲み取れるため、意欲を取り戻すよう巧みに候補者を励まし、支えることができる。

さらに、以下の候補者Eのコメントからも、講師の日本語学習経験の共有が候補者の学習意欲を維持することにつながっていたのがわかる。

先生 gave us piece of advice and tips on how she study Japanese and passed JLPT N1. It gives us motivation. (候補者E)

先生は私たちに日本語の学習方法と日本語能力試験N1に合格する方法についてアドバイスとヒントをくれた。私たちの学習意欲を引き出してくれる。〔報告者訳〕

このほか、候補者ふり返り Padlet には「ジョーク交じりで楽しいので寝てられない」「毎週この時間が待ち遠しい」など、プラス3 With Teachers を楽しみにしているという書き込みが多く、精神面でも候補者の学習意欲向上に良い影響を与えていたことを示している。

4.3 フィリピン人講師と候補者のふり返りからみえたこと

4.1「講師によるふり返り」および4.2「候補者によるふり返り」で明らかになったプラス3 With Teachers での様相を踏まえ、EPA 訪日前研修におけるフィリピン人講師の重要性について以下のようにまとめる。

EPA 訪日前研修においては、フィリピン人講師の存在が以下に寄与している。

- 1) 候補者の心理的安全性が増し、講師とのコミュニケーションが活発になる。
- 2) 1) の結果、候補者の学習状況をより詳細に把握できるようになる。
- 3) 個別の学習状況に応じて、学習習慣形成を意識した支援ができるようになる。
- 4) 必要に応じて英語やタガログ語を用い、学習面と精神面の双方から、候補者に対し細か

な対応ができる。

- 5) 候補者の弱点をチームの講師に共有することにより、チームの講師が一丸となって候補者を支援することができる。
- 6) チームの講師から共有された候補者の弱点について支援することができる。

これらは、フィリピン人講師が候補者と共通の言語を持っていること、日本語学習経験者であること、候補者の文化的背景を理解していることに起因していると考えられる。

以上の点からフィリピン人講師が EPA 訪日前研修で果たす役割は非常に大きいといえる。

5. まとめ

プラス 3 With Teachers を担当したフィリピン人講師、候補者双方のふり返りにより、単なる学習支援の枠組みを超えたフィリピン人講師の役割が確認できた。プラス 3 With Teachers での母語の使用やフィリピン人の躓きやすいポイントを押さえた学習支援は候補者の日本語学習への不安を軽減しているのに加えて、長期のオンライン研修という、ともすれば孤独に陥りやすく学習意欲を高めにくい環境において、精神面でも候補者を支えていた。また、講師の3分の2が日本人という環境で日本語学習に励む研修 A の候補者には、フィリピン人講師との学習時間は心のよりどころとなり、そしてまた、フィリピン人講師にとっても手ごたえや成果が感じられる時間となった。

対面研修時に比べ授業時間が限られたことにより、フィリピン人講師による支援の必要性、重要性がより浮き彫りになった。ただ候補者と同じフィリピン人であるというだけでなく、これまで何年もの間、候補者を支えてきた豊かな経験がオンライン研修においても存分にいかされてきたことが明らかになった。

フィリピン人講師が活躍するプラス 3 With Teachers と授業との連携強化は、オンライン研修という制限ある学習環境下では最良の方策になるだろう。今後はフィリピン人講師自らがその役割と重要性を意識化しつつ学習支援にあたっていけるよう促していく必要がある。例えばフィリピン人専任講師を中心に、フィリピン人講師の強みをいかした教師研修を実施してけるとよいだろう。長きにわたり研修を支えてきたフィリピン人講師が主体となる学習支援は EPA 訪日前研修の質の向上に寄与すると信じている。

〔注〕

^① JF が運営する日本語学習プラットフォーム「JF にほんご e ラーニング みなと」<<https://minato-jf.jp/>> (2022年8月22日) 内の「まるごと日本語オンラインコース」を受講させた。

^② 「まるごと+ (まるごとプラス)」<<https://marugotoweb.jp/ja/>> (2022年8月22日)

JF 日本語教育スタンダード準拠 国際交流基金オフィシャル日本語コースブック『まるごと 日本のこ

とばと文化』の内容に沿って、日本語や日本文化が学べるサイト。自己学習用に候補者に紹介した。

⁽³⁾ 研修Bでは候補者ふり返り Padlet をグループで記入させていたため、「候補者グループ」と表記した。

〔参考文献〕

大田美紀・早川直子・小川靖子・江森悦子・牟田綾・平田佑和・竹本恭子・竹田恒太 (2022) 「インドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者を対象とする反転授業によるオンライン日本語研修の実践－EPA に基づく訪日前研修の新たな取り組み－」『国際交流基金日本語教育紀要』18、71-82
国際交流基金「EPA（経済連携協定）日本語予備教育事業」

<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/education/training/epa/>> (2022年8月22日)

登里民子・山本晃彦・鈴木恵理・森美紀・齊藤智子・松島幸男・青沼国夫・飯澤展明 (2014) 「経済連携協定 (EPA) に基づくインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者を対象とする日本語予備教育事業の成果と展望」『国際交流基金日本語教育紀要』10、55-69